

---

**(前期) 1年次・必修**

---

**【概要・目標】**

本授業では、体育・スポーツ教育での学びや協調性、自主性等を生かし、仲間同士による助け合いを通して、スポーツの楽しさだけでなく、達成感、爽快感を創出することを目標とします。実施するスポーツ種目はバレーボール、バスケットボール（ポートボール）、バトミントンなどで、これらのスポーツ種目を8人～12人グループ単位の対戦形式で行います。

また、最近話題になっているドッジビー、キンボール、ボッチャ等のスポーツウェルネスについても紹介し、各自の健康の維持・増進に効果的な運動・スポーツを実践するとともに、健康の維持・増進に必要な運動の基礎的理論を学びます。

**【授業内容・スケジュール】**

- 1) ガイダンス（授業の内容・進め方について）
- 2) アイスブレイク（ゲーム）
- 3) スポーツ実技1（ポートボール）
- 4) スポーツ実技2（バスケットボール）
- 5) スポーツ実技3（ポートフリスビー）
- 6) スポーツ実技4（ポートフリスビー）
- 7) スポーツ実技5（バレーボール）
- 8) スポーツ実技6（バレーボール）
- 9) 健康運動（エアロビクスダンス）
- 10) スポーツウェルネス1（ドッジビー、アルティメット、キンボール等）
- 11) スポーツウェルネス2（ドッジビー、アルティメット、キンボール等）
- 12) スポーツウェルネス3（ドッジビー、アルティメット、キンボール等）
- 13) スポーツウェルネス4（ドッジビー、アルティメット、キンボール等）
- 14) スポーツウェルネス5（ドッジビー、アルティメット、キンボール等）
- 15) まとめと評価

**【評価】**

試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、発表（0%）、提出物（0%）、出席状況（20%）、参加態度（20%）、その他（20%）

**【教科書】**

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

**【推薦参考図書】**

適宜、提示します。

**【その他】**

動きやすい服装（できれば中学校・高等学校の体操服）、シューズで参加して下さい。

---

**(通年) 1 年次・必修**

---

**【概要・目標】**

グローバル人材の育成が求められる昨今、英語運用能力を測る目安として TOEIC<sup>®</sup> Listening & Reading Test が利用される機会が多くなっているが、制限時間内に全問を解き終えるには、スキミングやスキヤニングといったテクニックも必要となってくる。

本講義では、Listening・Reading 両セクションの問題形式に慣れ、語彙力を伸ばしていく。またリスニングスキル・文法力・読解力の養成とともに、総合的な英語発信能力の向上を目指す。

---

**【授業内容・スケジュール】**

- 1) オリエンテーション (授業の概要、受講上の注意点など)
- 2) 3) Unit 1: Daily Life
- 4) 5) Unit 2: Shopping
- 6) 7) Unit 3: Parties & Events
- 8) 9) Unit 4: Traffic & Travel
- 10) 11) Unit 5: Office Work
- 12) 13) Unit 6: Marketing & ICT
- 14) 前期のまとめ
- 15) 前期目標到達度確認
- 16) 前期を振り返って
- 17) 18) Unit 7: Production & Logistics
- 19) 20) Unit 8: Employment
- 21) 22) Unit 9: Personnel
- 23) 24) Unit 10: Business
- 25) 26) Unit 11: Health & Environment
- 27) 28) Unit 12: Finance
- 29) 後期のまとめ
- 30) 後期目標到達度確認

---

**【評価】**

試験 (60%)、レポート (0%)、小テスト (20%)、発表 (0%)、提出物 (0%)、出席状況 (10%)、参加態度 (10%)、その他 (0%)

---

**【教科書】**

安丸雅子, 渡邊晶子ほか. *Seize the Keys of the TOEIC<sup>®</sup> L&R Test*. 金星堂, 2020.

---

**【推薦参考図書】**

適宜紹介する

---

**【その他】**

全授業回数の 3 分の 1 以上の欠席は失格、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回分とカウントする。毎回必ず辞書 (電子辞書可) を持参すること。なおスマートフォンや携帯電話の使用は認めず、辞書なしの受講は欠席とみなすので注意すること。E-mail: msando@wakayama-med.ac.jp

## (前期) 1年次・必修

**【概要・目標】**

情報化社会においてはコンピュータに対する知識やその基本的な操作方法の修得が必要不可欠なものとなってきている。本演習の到達目標は、①コンピュータ環境に慣れること、②各種のアプリケーションを活用できるようになること、③インターネットの活用とそのモラルについて理解することにある。毎回の演習を通じて、コンピュータ・リテラシーについての基本的な理解をしてもらいたい。なお、この授業は40人単位の2クラスに分けて演習形式で行う。

2020年8月に学内端末の入れ替え作業が予定されている。この授業で学ぶのは入れ替え前の端末での基本操作である(夏休み前に終了)。テキストの単なる丸写しのような学習態度でさえなければ、アップグレード後のOS・アプリケーションへの適応は容易であるので安心されたい。

**【授業内容のスケジュール】**

- 1) コンピュータの基本操作とインターネットの活用
- 2) 大学生として最低限身につけておかなければならない文書表現力の基本的スキル
- 3) ワードプロソフトの活用 1—Word2013 の基礎
- 4) ワードプロソフトの活用 2—文書の作成
- 5) ワードプロソフトの活用 3—表の作成
- 6) ワードプロソフトの活用 4—実践
- 7) プレゼンテーションソフトの活用 1—PowerPoint2013 の基礎
- 8) プレゼンテーションソフトの活用 2—スライドの作成
- 9) プレゼンテーションソフトの活用 3—独自のスライド作成
- 10) 表計算ソフトの活用 1—Excel2013 の基礎
- 11) 表計算ソフトの活用 2—表の作成
- 12) 表計算ソフトの活用 3—グラフの作成
- 13) 表計算ソフトの活用 4—データベースの活用と関数の利用
- 14) 個別課題への取り組み
- 15) 個別課題の完成

**【評価】**

最終課題(80点満点)に、普段の授業での取り組みの係数(0.75から1.25)を掛けて100点満点で評価する。

**【教科書】**

- 「イチからしっかり学ぶ! Office 基礎と情報モラル」(Office2013・2010対応)noa 出版  
「文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術」(2013対応)noa 出版  
「情報倫理ハンドブック」noa 出版  
「レポート・論文作成に役立つ文書表現術」noa 出版

**【推薦参考図書】**

個々の進度・ニーズに応じたものが多数あるので、自分で探さなければもったいない。

**【その他】**

第1回で配布する授業進行用シラバスを授業前に読み、必ず持参すること。そのシラバスやテキストを忘れた場合、大幅な減点対象となることもある。

---

**(通年) 1年次・必修**

---

**【概要・目標】**

看護職は、その業務を自ら工夫し判断する力を持つことを求められている。しかるに学内では、定期試験の直前に教科書のどこを覚えたらいいか聞きに来る学生が絶えない。なんたることか。君たちは変わらなければならない。

ここに、自ら問題を発見し、自らその解決を図る時間を用意する。5～6人のグループに分かれ、教員の見守る中で学生たちが自らの興味関心を発掘し、解決すべき課題をたて、その解決を図る。時間はたっぷりある。紆余曲折結構。議論が過ぎての喧嘩も結構。教員を巻き込むのも構わない。すべては君たちに掛かっている。

知恵を絞ろう。議論をしよう。何を探せばいいか、どうまとめたらいいか。判断に間違いはないか。知りたいことが分かったか。

最後は、成果を発表する。短い時間に過不足なく人に伝えるには、工夫が必要だ。しかし、こじんまりした発表はいらない。途中経過で結構。ただ、君たちが今しなければならないことが骨身に応えるほど分かったかどうか、それだけを期待する。

---

**【授業内容・スケジュール】**

- 1)                   オリエンテーション、配属（前期）
- 2) ～13)           前期テーマ（課題1, 課題2）による討論
- 14) ～15)          前期発表会
- 16)                   配属（後期）
- 17) ～28)          後期テーマ（課題1, 課題2）による討論
- 29) ～30)          後期発表会

---

**【評価】**

出欠状況、授業への積極的参加度

---

**【教科書】**

---

**【推薦参考図書】**

---

**【その他】**

---

---

**【概要・目標】**

人間の健康についての多面的な考究に必要な視点、知識、研究手法等を習得する。すなわち、今日的な健康課題として、人間の尊厳にかかわる健康の概念、基本的人権としての健康権、社会環境の変化に伴う健康問題の変遷、教育、保健・医療、福祉の統合とヘルスプロモーションの展開等について学際的に理解する。

---

---

**【授業内容・スケジュール】**

- 1 生命維持と健康—生理学的理解—
  - ① 生理学からみた健康
  - ② 生命表に見る健康課題の変遷
  - ③ 感染症対策から生活習慣病予防へ — 一次予防と二次予防 —
  - ④ 生涯を通じての健康づくり
- 2 精神発達と健康—大脳生理学と発達心理学—
  - ⑤ 人間らしさの生理学的基礎
  - ⑥ 発達段階と発達課題—健康な「こころ」を育てるために—
  - ⑦ 発達段階に応じた精神保健
  - ⑧ 自殺の年次推移とその背景にあるとみられる諸要因
- 3 健康の社会的側面
  - ⑨ 狩猟・採集社会，農耕社会から工業化、頭脳集積型社会へ
  - ⑩ 人口問題の変遷—少子・高齢化が提起する課題
  - ⑪ 少子化対策と高齢社会対策
  - ⑫ 社会の組織的努力と個人の自助努力・自己責任
- 4 環境と生体の相互作用
  - ⑬ 生態系の営み
  - ⑭ 疾病の発症・進展への各種要因のかかわり
  - ⑮ 新しい環境問題—地球環境問題

---

---

**【評価】**

筆記試験 (80%)、毎時間のミニレポート (20%)

---

---

**【教科書】**

城・宮下・武田編 「エビデンスにもとづく公衆衛生学」培風館 2017  
その他、必要に応じ資料配布

---

---

**【推薦参考図書】**

適宜紹介する

---

---

**【その他】**

メールアドレス [afujiy@wakayama-med.ac.jp](mailto:afujiy@wakayama-med.ac.jp)

---

---

**身体の構造と機能**

上 松 右 二 教授  
水 越 正 人 教授  
森 岡 郁 晴 教授  
柳 川 敏 彦 教授

(通年) 1年次・必修

---

---

**【概要・目標】**

講義と実習を通して構造(解剖)と機能(生理)を関連づけながら、正常な人体の成り立ちを理解する。疾病や病態の理解のためには、正常な人体の構造・機能に関する正確な知識を習得することが必要となる。(オムニバス方式)

(上松教授) 内分泌器(前期)、消化器・代謝(前期)、神経組織(後期)

(水越教授) 人体：オリエンテーション・細胞と組織(前期)、循環器(後期)

(森岡教授) 骨格・筋(前期)、血液・生体防御機構(後期)

(柳川教授) 呼吸器(前期)、腎(後期) 男性・女性生殖器(後期)

上記の構造と機能について疾患の発生に関連する知識を整理し、後の病態学の学習のための知識とする。

---

**【授業内容のスケジュール】**

(担当)

**【前期】**

骨格・筋

森 岡

人体：オリエンテーション・細胞と組織

水 越

呼吸器

柳 川

消化器

上 松

内分泌器

上 松

組織実習

全 員

**【後期】**

循環器

水 越

神経

上 松

血液・生体防御機構

森 岡

泌尿器・腎

柳 川

生殖器

柳 川

※系統解剖学実習見学(1/2回)

全 員

---

**【評価】**

筆記試験(80%)、出席状況(10%)、提出物(レポート等)(10%)

前期・後期にそれぞれの講義内容について筆記試験を行い、評価は通年で判定する。

---

**【教科書】**

エリン N. マーブ 著「人体の構造と機能」医学書院 2015年(第4版)

改訂の場合は発行最新版を使用

---

**【その他】**

---

**基礎病態学**

上 松 右 二 教授  
水 越 正 人 教授  
村 垣 泰 光 教授\*  
西 尾 真 智 子 教授\*

---

(後期) 1年次・必修

---

**【概要・目標】**

人体の正常についての知識(身体の構造と機能)をもとに、その異常(疾患)の病因と発生機序を理解し、各種病態の理解に必要な基礎知識を習得する。

---

**【授業内容のスケジュール】**

(担 当)

1) ~ 4)

(病理学総論) 人体の正常についての知識をもとに、疾患の基礎病態である炎症、腫瘍、免疫機構、循環障害、代謝障害などの総論を学習する。

(村 垣)

5) ~ 8)

(微生物学) 感染性の原因となる微生物の特徴を理解するとともに、感染に伴う生体反応としての臨床的症候についても学習する。

(西 尾)

9) ~ 15)

(病理学各論) 各種疾患の基礎病態を総論の知識をもとに学習する。

(上 松, 水 越)

---

**【評価】**

筆記/口頭試験(90%)、出席状況(10%)

---

**【教科書】**

講義プリント

---

**【推薦参考図書】**

- 1) 「標準病理学」第6版 医学書院 2019
- 2) 小熊恵二、堀田博「コンパクト微生物学」南江堂 2015
- 3) 本田武司編「はじめの一步のイラスト感染病・微生物学」羊土社 2011
- 4) 平野朝雄、富安斉「神経病理を学ぶ人のために」医学書院 2003
- 5) 渡辺照男編「カラーで学べる病理学」ヌーヴェルヒロカワ 2019

---

**【その他】**

---

---

(前期) 1年次・必修

---

---

**【概要・目標】**

概要：保健看護は、保健や医療のみならず高齢者や障害者に関わる福祉とのつながりを深めながら、その人を中心に専門家と連携し、健康上の相談や助言、教育指導に関わり、生活を支えていくという広い視野の中にあることを学ぶ。

また、看護の本質や看護の独自性について学ぶ。看護の歴史的経緯をふまえ、看護学を構築する重要概念を理解する。

- 目標：1) 保健看護の考え方を学ぶ。  
2) 看護に関わる歴史的事象をふまえて、生活と健康、社会と看護とのつながりを学び、看護の役割拡大について考える。  
3) 看護学を構築する4つの主要概念を学び、人間の生活と健康との関連を考える。  
4) 看護学における基本的概念と看護倫理を理解し、看護の本質を考える。

---

**【授業内容のスケジュール】**

- 1) 保健看護について
- 2) ～3) 看護概念の変遷
- 4) ～5) 看護の主要概念
- 6) ～7) 看護の本質1 (看護の定義)
- 8) ～10) 看護の本質2 (ケアリング)
- 11) ～12) 看護の本質3 (看護の歴史、文化ケア)
- 13) 看護倫理
- 14) 看護職者の教育とキャリア開発
- 15) まとめ

---

**【評価】**

筆記試験 (70%)、レポート (20%)、グループワーク等の参加状況 (10%)

---

**【教科書】**

日本看護協会監修「2020年度版 看護者の基本的責務」日本看護協会出版会  
茂野香おる他「系統看護学講座1 看護学概論 第17版」医学書院 2020

---

**【推薦参考図書】**

- F. ナイチンゲール「看護覚え書 (対訳)」うぶすな書院 1998  
V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 2016  
その他随時紹介する

---

**【その他】**



---

(後期) 1年次・必修

---

**【概要・目標】**

概要：看護の機能と役割を学び、看護活動の目標、対象、看護と社会との関わりなどについて学習する。看護の視点・考え方の基盤として看護理論を学習するとともに、看護倫理の課題を理解し、それらを実践に活用する方法を考察する。さらに、医療において避けて通ることのできない人の死と看護について学習する。また、医療事故の予防についても学習する。

- 目標：1) 看護活動の目標、対象、看護と社会との関わりについて理解を深める。  
2) 看護の役割と機能について理解する。  
3) 看護の理論と看護実践の関係について理解する。  
4) 看護の実践における行動の指針となる看護倫理について考える。  
5) 看護において重要である人の死についての理解を深める。  
6) 医療事故が起こる過程と防止する対策について理解する。

---

**【授業内容のスケジュール】**

- 1) 看護活動論とは
- 2) 看護の役割と機能
- 3) ～7) 看護理論
- 8) ～10) 医療をめぐる死・死の準備教育
- 11) ～13) 看護倫理
- 14) 医療安全
- 15) まとめ

---

**【評価】**

筆記試験 (70%)、レポート (20%)、グループワーク等の参加状況 (10%)

---

**【教科書】**

茂野香おる他「系統看護学講座 1 看護学概論 第17版」医学書院 2020

筒井真優美編「看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 改訂第3版」南江堂 2019

---

**【推薦参考図書】**

随時紹介する

---

**【その他】**

看護学生フォーラム等

---

---

## 人間理解と看護

坂本 由希子 准教授  
岩根 直美 准教授  
米島 望 助教  
野々口 陽子 助教

(前期) 1年次・必修

---

---

### 【概要・目標】

概要：この科目は、看護の対象である人を理解するための基礎的な理論を学習し、看護の立場から人間をどう理解するかを探求する。そして、看護実践を行なう際に共通する基本的な看護技術である感染防止対策の基本、コミュニケーション技術、環境を整える技術を習得する。また、これらの学習を通して、看護活動とは何かを自ら探求しようとする力を養う。

- 目標：1) 人間理解の基礎的理論を理解する。  
2) 保健看護の視点で人間を探求することができる。  
3) 看護活動に共通する看護技術について理解できる。  
4) 感染防止対策の基本を理解し、手洗いの技術が習得できる。  
5) 対象とのよい人間関係を形成するためのコミュニケーションについて理解し、基礎的な技術が習得できる。  
6) 保健看護の視点から人間と環境との関連について理解し、環境を整える基礎的な技術が習得できる。

---

### 【授業内容のスケジュール】

- 1) ガイダンスおよび看護技術の基本 / 人間の欲求と看護とのかかわり
- 2) ~ 3) 感染防止対策の基本と手洗い技術
- 4) ~ 7) 人間関係を発展させる技術
- 8) ~ 9) 人間と環境のかかわり
- 10) 効率的で安楽な動きを作り出す技術 (ボディメカニクス)
- 11) ~ 14) 環境を整える基本的技術
- 15) まとめ

---

### 【評価】

筆記試験 (70%)、技術試験 (20%)、レポート・出席や演習などの学習態度 (10%)

---

### 【教科書】

坪井良子・松田たみ子編「考える基礎看護技術 I・II 第3版」ヌーヴェルヒロカワ  
任和子他編「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版」医学書院

---

### 【推薦参考図書】

三上れつ・小松万喜子編「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」ヌーヴェルヒロカワ  
阿曾洋子・井上智子・氏家幸子著「基礎看護技術 第7版」医学書院  
川島みどり著「改訂版 実践的看護マニュアル 共通技術編」看護の科学社  
吉田みつ子・本庄恵子編著「写真でわかる 実習で使える看護技術」インターメディカ  
志自岐康子他編「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」メディカ出版  
その他 (講義の中で紹介)

---

### 【その他】

学習サポート:実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。(曜日などの詳細は別途)

---

---

## ヘルスアセスメント

岩 根 直 美 准教授  
坂 本 由希子 准教授  
米 島 望 助教  
野々口 陽 子 助教

(後期) 1年次・必修

---

---

### 【概要・目標】

この科目では、対象者の健康状態をアセスメントするための基礎的知識とアセスメントテクニックを学ぶ。アセスメントテクニックとしては、問診、視診、触診、打診、聴診、測定器具を用いた方法を学ぶ。さらに、生理的側面と心理・社会的側面の関係をふまえ、収集した情報からのアセスメントの方法を学ぶ。

- 目標
- 1) 対象者の健康状態をアセスメントするための全身の系統の見方がわかる。
  - 2) 問診、視診、触診、聴診、打診、測定器具を用いた方法を用い必要な情報を得ることができる。
  - 3) 得られた情報から、その意味を考えることができる。
  - 4) 判断のために必要な情報を考えることができる。

---

### 【授業内容のスケジュール】

- 1) ヘルスアセスメントとは
- 2) ~6) バイタルサインズのアセスメント(講義と演習)  
呼吸・循環(血圧・脈拍)・体温
- 7) ~12) フィジカルアセスメントテクニック(講義と演習)  
問診・視診・触診・打診・聴診  
身体各部の計測
- 13) 食事と栄養に関するアセスメント
- 14) 排泄に関するアセスメント
- 15) 意識障害と神経系のアセスメント

---

### 【評価】

試験(80%)、授業への参加態度(10%)、出席状況・提出物(10%)をもって評価する。

---

### 【教科書】

松尾ミヨ子他編「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」第5版 メディカ出版

---

### 【推薦参考図書】

- 1) 三上 れつ 他編「ヘルスアセスメント」第2版 南江堂
- 2) 藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド」第3版 学習研究社
- 3) 阿部幸恵「症状別病態生理とフィジカルアセスメント」照林社

---

### 【その他】

学習サポート

実習室において、自己学習と技術指導を受けることができます。(曜日などの詳細は別途)

---

---

**看護方法論 I (生活援助)**

坂本 由希子 准教授  
岩根 直美 准教授  
野々口 陽子 助教  
米島 望 助教

---

---

**(後期) 1年次・必修**

---

---

**【概要・目標】**

概要：あらゆる健康レベルにある人々の生活過程を理解し、人々が安全で安楽な生活を行うための基礎的な援助技術を習得する。看護技術の習得は、人間への尊厳を土台として、手順や方法だけでなく専門的な知識をふまえて、状況を判断する能力が必要であり、根拠に基づいた実践が行えるように学習する。

- 目標：1) ボディメカニクスや体位変換および移動について学び、それらを整える技術を習得する。
- 2) 休息や睡眠、また運動や活動について学び、それらを整える技術を習得する。
- 3) 身体の清潔について学び、それらを整える技術を習得する。
- 4) 栄養と食事について学び、それらを整える技術を習得する。
- 5) 排泄について学び、それらを整える技術を習得する。

---

---

**【授業内容のスケジュール】**

- 1) ガイダンスおよび人々の生活過程の特徴
- 2) ～4) 運動と活動・睡眠と休息に関する技術
- 5) ～9) 衣生活と清潔に関する技術
- 10) ～11) 栄養と食生活に関する技術
- 12) ～14) 排泄に関する技術
- 15) まとめ

---

---

**【評価】**

筆記試験 (70%)、技術試験 (20%)、レポート・出席や演習などの学習態度 (10%)

---

---

**【教科書】**

坪井良子・松田たみ子編「考える基礎看護技術 I・II 第3版」ヌーヴェルヒロカワ  
任和子他編「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版」医学書院

---

---

**【推薦参考図書】**

三上れつ・小松万喜子編「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」ヌーヴェルヒロカワ  
阿曾洋子・井上智子・氏家幸子著「基礎看護技術 第7版」医学書院  
川島みどり著「改訂版 実践的看護マニュアル 共通技術編」看護の科学社  
吉田みつ子・本庄恵子編著「写真でわかる 実習で使える看護技術」インターメディカ  
志自岐康子他編「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」メディカ出版  
その他 (講義の中で紹介)

---

---

**【その他】**

学習サポート：実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。(曜日などの詳細は別途)

---

---

**ライフステージと看護**

井上みゆき 教授  
辻あさみ 教授  
山口雅子 教授  
服部園美 准教授

(後期) 1年次・必修

---

---

**【概要・目標】**

健康な人の身体的・精神的・社会的発達を理解するために、それぞれのライフステージにおける特徴と発達課題を学び、健康を守る生活支援や看護の役割を理解する。

1. 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。
  2. ライフステージにおける各期の特徴と発達課題を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
  3. 個人が主体的に健康を守り、望ましい発達や適応を促進する生活ができるよう支援する保健看護について学ぶ。
- 

**【授業内容のスケジュール】**

(担当)

- |   |    |
|---|----|
| 1) ライフステージと看護                             | 山口 |
| (1) 人間の発達とは (2) ライフステージと発達課題              |    |
| 2) ～6) 母性看護における発達の特徴と健康への看護               | 山口 |
| (1) リプロダクティブヘルス/ライツ                       |    |
| (2) 母性看護の対象の理解                            |    |
| (3) 母性の健康課題・発達課題                          |    |
| 7) ～9) 小児期における成長・発達の特徴と生活支援               | 井上 |
| (1) 乳児期の成長・発達と生活支援                        |    |
| (2) 幼児期の成長・発達と生活支援                        |    |
| (3) 学童期の成長・発達と生活支援                        |    |
| 10) ～12) 成人期にある人の発達の特徴と健康への看護             | 辻  |
| (1) 成人期の特徴と成人にある人を取り巻く状況 (2) 成人期にある人の健康とは |    |
| (3) 成人期にある人を看護するための基本的な考え方                |    |
| 13) ～15) 老年期における成長・発達の特徴と健康への看護           | 服部 |
| (1) 老年期の特徴 (2) 発達課題と危機 (3) 健康問題と看護        |    |
- 

**【評価】**

小児看護：事前学習課題・講義への自主的参加 10%・試験 90%

母性・成人・老年看護：筆記試験 90%、講義への出席状況・参加状況 10%

筆記試験 評価責任者：山口雅子教授

---

**【教科書】**

渡邊浩子他 「母性看護学①母性看護学概論」メヂカルフレンド社

二宮啓子他 「小児看護学概論—子どもと家族に寄り添う援助 改訂第3版」南江堂

林直子監修 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第3版」南江堂

北川公子他 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」医学書院

---

**【推薦参考図書】**

服部祥子「生涯人間発達論」医学書院 2000

舟島なをみ「看護のための人間発達学」医学書院 1995

---

